卒業生特集

経附生が選ぶ〇〇ランキング

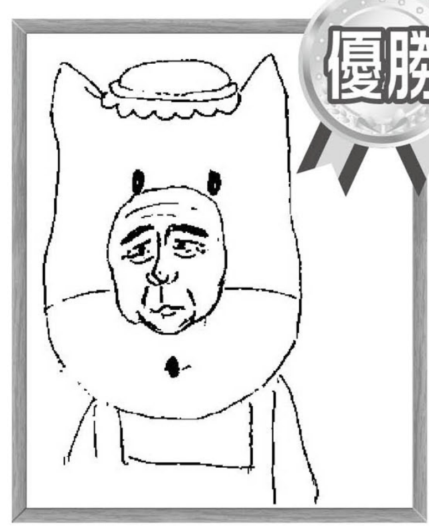
本年度は例年から内容を一新、3年生を対象にユーモアあふれるアンケートを実施し、様々なランキングを作成した。経附生の面白みあふれる回答をぜひ楽しんでほしい。（千葉）

ぐんまちゃん イラストコンテスト

ここではアンケートで協力を依頼した「経附生が何も見ずに描いたぐんまちゃんイラスト」を、部員の独断と偏見で選抜して紹介する。経附生の画力を明らかにしていこう。なお、ノーマル部門には「ぐんまちゃんを描こう」という意思があるものを、ユーモア部門には「個性あふれるぐんまちゃん？」をエントリーした。

ユーモア部門

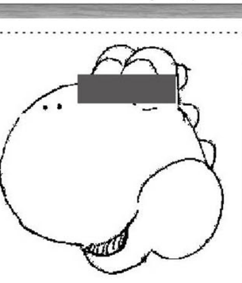
優勝



▶安倍総理のかぶり物

当初は議論を呼んでいたが、結局「面白いものが一番」ということで優勝に。安倍総理のクオリティの高さから、作者からの彼への愛を感じ取れる。国民的知名度という点で一致する2人だが、ぐんまちゃんが安倍総理のお面しているのか、安倍総理がぐんまちゃんの中にいるのかは定かではない。

二位

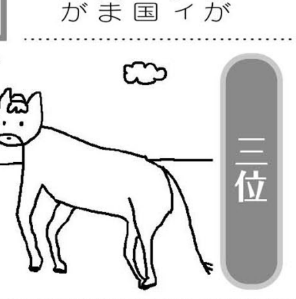


[redacted]

▶ヨ●シー

都合により、一部を伏せさせていただきます。

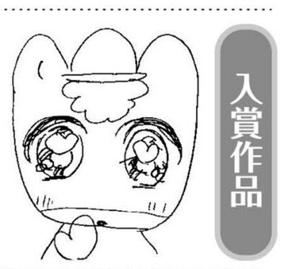
三位



▶自然に帰ったぐんまちゃん

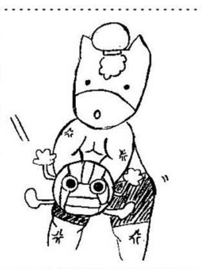
いつかこんな日が来てしまうのだろうか。寂しい。

入賞作品



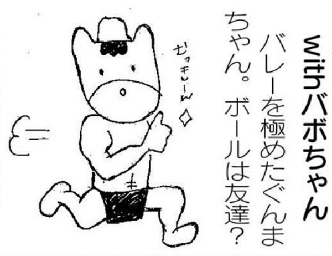
▶ちゃおぐんま©

ちゃおの表紙を飾ったぐんまちゃん。目のハートでモテモテ美馬！



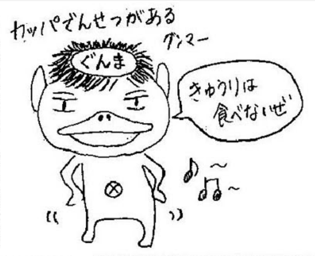
▶ムキムキバレー部ぐんまちゃんwithバボちゃん

バレーを極めたぐんまちゃん。ボールは友達？



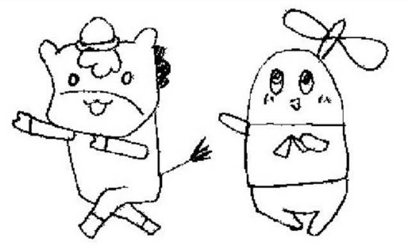
▶こんなぐんまちゃんは嫌だ

同感である。筋肉ももちろんだが、何よりもふんどしが謎だった。


カッパでんせつがある
グンマー
ぐんま
きゅうりは食べないぜ

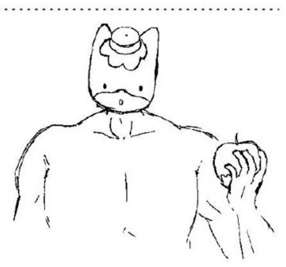
▶本当のぐんま代表

廃業した某遊園地の刺客だろうか。今後も陰で活躍を続けてほしい。



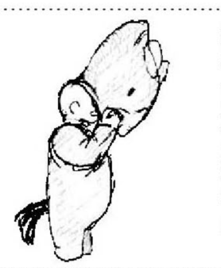
▶人生一度きりdreamつかみたいからfeatふなっしー

楽しそうに踊っている姿もいいが、個人的に題名がツボにはまった。



▶no name

ただの可愛い二頭身とは言わせない…。見よ、鍛え上げたこの肉体を。

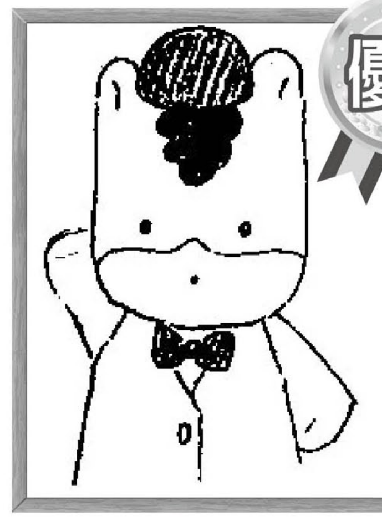


▶真実のぐんまちゃん

ぐんまちゃんに中身なんど存在しない。信じるかはあなた次第だが、作者は夜道に気をつけよう。

ノーマル部門

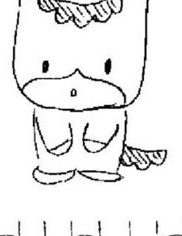
優勝



▶ベストぐんまちゃん

オリジナリティと可愛らしさが抜群の作品。ユーモア部門の鑑賞によって見失ってしまった〝ぐんまちゃん本来の姿〟を思い出させてくれる。他のノーマル部門作品も同様、2面記事では稀有な癒し的存在だ。

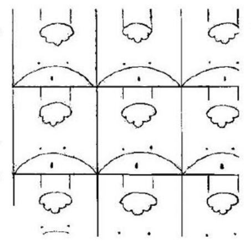
二位



▶首なしポニー

純粋に可愛いと思った。惜しくも優勝は逃したものの尻尾まで描いてあり、極めて本家に忠実な作品である。

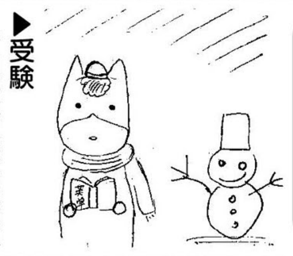
三位



▶ブロックぐんまちゃん

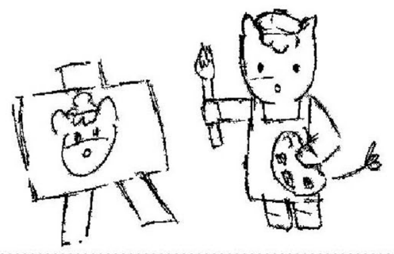
ブロック型のぐんまちゃんの顔が端から端まで敷き詰められていて、可愛いと思った。

入賞作品



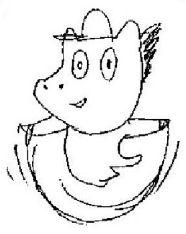
▶受験

新聞部は頑張る受験生を応援します。

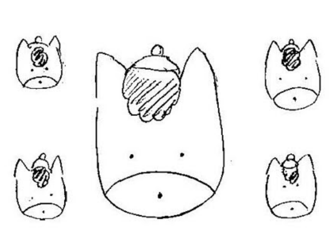


▶秋の芸術ぐんまちゃん

ぐんまちゃんは絵心があるのか。判断はあなた次第？

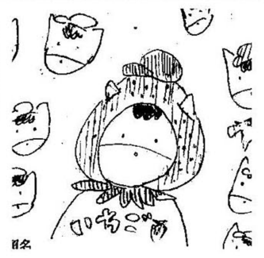


アンケート用紙にお手本として掲載した新聞部顧問・舩津先生の作品であり、ユーモア部門殿堂入りの伝説的傑作。



▶こっちを見ているぐんまちゃん

何かこちらに訴えているような目。きっとお腹がすいているのだろう。



▶いうま

いちごの品種が気になる。やよいひめ？それとも、とちおとめ？

10年後の自分の姿

あなたは未来の自分がどのような生活を送っているか、想像したことはあるだろうか。ここでは経附生に実施した「10年後の自分は何をしている？」というアンケートの結果を基に、経附生の思い描く将来を紹介していく。

人生ばら色派

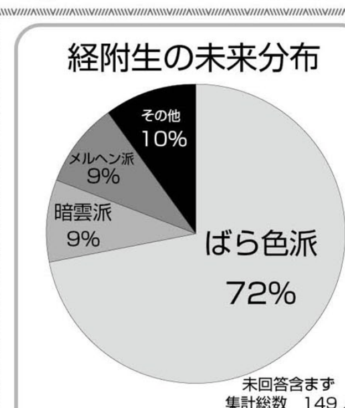
- ●メイクアップアーティストになってる
  - ↓人を美しくする仕事になりたいから
- ●白衣の天使になって虫歯撲滅
  - ↓歯科専門を卒業してすばらしい人になっているはずだから
- ●キャッシュで車を買っている
  - ↓夢だから
- ●都内のサロンで美容師
  - ↓夢だから
- ●群銀システムサービスセンター職員
  - ↓今なりたいと思っているから
- ●日本男児
  - ↓日の丸を背負う男になるから
- ●小さいデザイン事務所で〆切りに追われる
  - ↓努力して夢をかなえるから！
- ●鳥に囲まれて暮らしている
  - ↓鳥が好きだから…
- ●彼の隣にいる
  - ↓好きだから
- ●マックで座席を探している
  - ↓マクドナルドが好きだから

暗雲派

- ●体重増加
  - ↓たべすぎ
- ●公園の遊具の下で生活しているかもしれない
  - ↓奨学金の返済が大変だから…。
- ●死んでる
  - ↓体が弱い
- ●ふつうの人
  - ↓夢をあきらめると思う
- ●ニート
  - ↓寝ることとマンガを読むことゲームをすることが好きだから

メルヘン派

- ●鰯
  - ↓鰯大好き
- ●飛ぶ
  - ↓ビックバードだから
- ●生まれ変わって猫
  - ↓猫になりたいから
- ●じばにゃん
  - ↓よく車に引かれるから
- ●カセイシンリャクナウ
  - ↓キブン
- ●るろうの剣客
  - ↓アニメ
- ●大富豪
  - ↓金で手に入らないのは君の心



ここから見るに、経附生が想像する自身の未来は明るいものが多いようだ。あなたの夢が実現されることを祈る。

発掘 身近な名言

身近な人がふと漏らした言葉、そんなそれがなぜか心に残っているという体験は、誰にでもあることだろう。ここではそれらを収集し、埋もれていた「ちょっとした名言」を発掘していく。

深いい系

- ●今居眠りをすれば夢を見る。今勉強をすれば夢がかなう。
- ●胃袋をつかむのは心をつかむようなもの。
- ●遠くのバラより近くのタンポポを。
- ●失敗は成功の母。
- ●俺がいじめとおもえばいじめなんだよ。
- ●バカは風邪をひかないんじゃない。気づかないんだ。
- ●人生半身浴。

おもしろい系

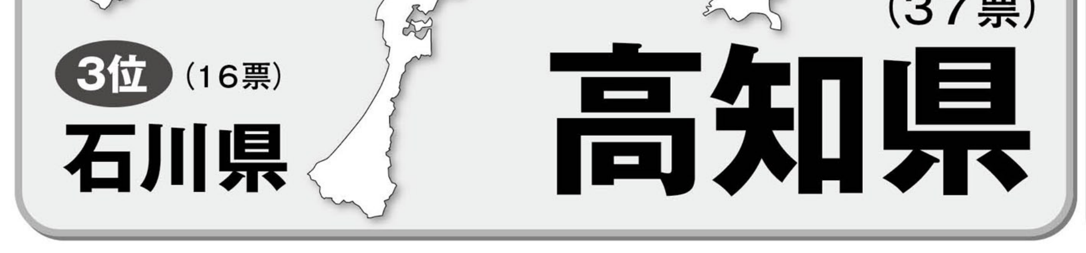
- ●喋る陰キャラ。
- ●筋肉は一生ものの服。
- ●筋肉は世界を救う。
- ●腹の下のタプンツェル
- ●ディズニーは戦場だ。
- ●今日から君は高崎ダルマだ！
- ●ガムでやる気が出るほど俺は甘くない。

代名詞系

- ●こんなん3秒で解けるやろ。
- ●世界語ろうぜぇ。
- ●藤井先生の「ふ」は「不審者」の「ふ」。
- ●奥さんが嫌いな男があるか。
- ●練習は嘘をつかない。
- ●逆も然りですよ。
- ●机の隙間は心の隙間。
- ●俺は怒らない。授業中何やってもいい。パン食べてもいいから、半分ちょうだいね。
- ●教頭先生、今日登場！
- ●寝るのは家に帰ってからにしてください。

都道府県 一番飛ぶのはどの県？

個性的なかたちをしているものが多い日本の都道府県だが、それらを眺めているとある疑問が浮上する。果たして、投げたときに最も遠くまで飛ぶ都道府県はどれだろう。そこで経附生にアンケートを実施、「経附生が選ぶ　飛距離No.1都道府県」を決定していく。



1位 高知

堂々の1位に輝いたのは、37票で高知県だった。

高知と言えば、その細長い形状と緩やかな曲線が特徴だが、やはり理由としても「ブーメランみたいだから」「握りやすそう」「スナップを利かせやすそう」という意見が多かった。

2位 群馬

23票と残念ながら14票差に終わったのは、なんと我らが群馬県だ。

その理由は「鶴舞う形だから」「好きだから」など、投擲のしやすさに関するものは少ないのが特徴で、経附生の群馬への愛が感じられる結果となった。

3位 石川

3位に入賞を果たしたのは石川県だった。

ロウソクのような独特な形をしているためか「ダーツみたい」「先端が重そう」「空気抵抗がなさそう」という理由が多々見受けられた。

先生方の意見

▼小野田先生（美術・情報）

「北海道じゃない。函館の辺りを持って手首を利かせて投げると、抵抗もいい感じになると思う」

▼重田先生（物理）

「空気抵抗を考えるならば、沖縄県本島の細さがいいですね。ダーツのように投げることで、抵抗を最小限に抑えられると思います」

▼高田先生（保体・元槍投げ選手）

「石川か、高知かな。やっぱり細いほうが単純に持ちやすくて、投げやすいと思う」

▼森田先生（地理）

「千葉の房総半島や、北海道の函館付近を持つと投げやすそうですね。あと、やはり石川県もいいと思います」

検証

アンケートの結果で明らかになった「飛距離No.1都道府県」だが、これは本当に正しいのだろうか。疑問を抱いた部員は、「高知」「群馬」の2県の形で段ボール製フリスビーを作成。質量を約150グラムに設定し、元槍投げ選手である高田先生の協力の下で検証を行った。群馬の下剋上は成功したのだろうか。

結論から言うと、高知の圧勝だった。左の写真の通り、約2倍の距離があるのがわかる。高田先生によると「高知と違い、群馬は持ち手に困った」とのことだ。さらに言えば、群馬は風の影響をもろに受けた。地上はほぼ無風だったにもかかわらず、上空を吹くからっ風にかなりの距離を押し戻されてしまったのだ。結果、この条件では高知の勝利である。

◀高知県を投げる高田先生

▲群馬を圧倒した高知

現代人の江戸時代必需品とは？

誰もが一度は夢見るタイムトリップ、もしあなたが江戸時代へいくことができたとしたら、そこへ何を持って行くだろうか。ここでは「江戸時代に1つだけ物を持って行くとしたら何？」というアンケートの結果を紹介する。

1位（17票） 歴史の本

2位（15票） スマートフォン

3位（9票） タイムマシーン

▲もし経附生が江戸へ行ったら…（提供：小野田先生）

◆革命派多数◆

1位に輝いた「歴史の本」を選んだ理由として「預言者として大成する」「未来を教えて、歴史を変える」などが多く見受けられ、積極的に歴史を改変しようとする（？）意見が多かった。

2位「スマホ」が選ばれた理由に関しても「昔の人に見せて自慢する」「未来のすごさを教える」など、歴史に影響を与えようとする意見が多かった。また「これがないと生きていけない」など、1面記事への関連性を見るような意見もあった。

3位「タイムマシーン」については「現在よりも未来の世界へ行く」などの意見が見られた。これは質問に「現在には戻れないものとする」という条件を追加していたためで、江戸時代には留まりたくないという生徒の強い意志が感じられた。

その他の意見

お母さん・母の手料理・トイレットペーパー・重火器・発電所・家・金塊

体験型学習で一歩先へ

～百聞はオナーにしかず～

一般的な高校のそれとは違い、通常では体験できないような貴重な経験ができるクラス、それが本校の「文系オナークラス」「理系オナークラス」である。この記事ではそれぞれ様々な体験型学習を行うことができるこのクラスの魅力と、各学年で特に人気な行事を紹介しよう。なお、これは今年度行われた行事であり、来年度以降は変更になる可能性がある。（千葉・本間）

文系オナー

文系オナークラスでは、本校が指定されているSGH（スーパーグローバルハイスクール）の恩恵を最大限に受けることができ、海外へ研修に行く機会も多々設けられている。また、高崎経済大学と連携しているため、大学生との長期的かつ継続的な学習をすることができるのだ。最終的に目指すのは「世界を牽引する力を持った生徒」を育成することである。

1年「熱血！販売甲子園」

1年次の一大行事、それが販売甲子園だ。これは高校生のチームが自らで企画した商品を販売することで優勝を競い合う大会で、各チームは資金6万円を与えられ、その範囲で商品を企画、仕入れや販売方法などを創意工夫して販売活動を行う。本年度より大会が全国区となったことで、北は福島から南は鹿児島までと、幅広い地域の高校が参加する白熱した戦いとなった。

1年文系オナーは本校を代表して例年これに出場しており、高崎経済大学生（以下経大生）の協力の下、3ヶ月にわたる準備を経て当日に臨んでいる。前回大会では本校から出場した2チームのうち、だるまの形をかたどった「バンズパン」と高崎の食材を豊富に使用した「ミネストローネ」を販売したチームが総合3位を受賞する活躍を見せた。

どのようにして地域をアピールする商品を販売できるかが重要になる販売甲子園では、地域の特産をいかに魅力的に組み合わせるか、という発想力が鍛えられる。通常では商業高校でしか体験できないような企画から販売までを通した活動を、普通高校である本校で体験することができるのも文系オナーの強みだ。

◀活気溢れる接客で優勝を狙う

2年「日経ストックリーグ」

経済大学附属の名に最もふさわしい行事、それがストックリーグである。これは全国の高校生が自らで設定した一つのテーマに従ってバーチャル株式で取引を行い、そのテーマ性や分析方法などの様々な観点で競い合う大会だ。

本校も毎年複数のチームが参加し、様々なテーマを設定してきた。例を挙げるなら「妖怪」「時間割」「アイドル」などで、一見株式に関係があるように見えないこれらを巧みに結びつけていく。「妖怪」では「日本人に古くから馴染みがあり、かつ人々の不安を解消する役割を持つ企業」を、また「時間割」では理想の時間割を作成し「各授業に適する企業」を抽出していた。このように楽しみながら株式を学ぶことができるのも、この行事の特徴だ。

審査の評価はレポートの内容に重きが置かれているため「いかに魅力的な資料を作ることができるか」というプレゼン能力と発想力が鍛えられる。また、この行事では経済を専門に学んでいる経大生から助言を受けながら、株式という視点から社会を考えることで、金融の仕組みや景気の良し悪しなど、それに類する様々な知識を身につけることができるのだ。

▲人々を楽しませる工夫を忘れず

3年「コラボゼミwith高崎経済大学」

3年間のオナー活動の集大成とも言えるこのコラボゼミ。1年次に学んだ販売の工夫、2年次に学んだ社会の動向などに関する知識を総動員して「国内企業における海外戦略」というテーマで経大生とともに協議していく。

対象とするのは国内の名だたる一流企業で、化粧品類から船舶まで、ジャンルを問わない複数の企業から1社を選択する。そして、実際にその企業の見学へ赴き、そこから海外戦略を研究したり、逆に自分たちで海外戦略を提案したりと、国内外の情勢を鑑みて徹底的に研究するのだ。総期間は半年にもおよぶ、非常に充実した内容の長期プロジェクトである。

また、最後にはそれらの内容を総括し、校内外問わず会場に訪れた多くの人々の前で発表する。

プレゼン能力、発想力、根気、そして幅広い知識など、この活動には様々な能力が求められる。3年間を通して得たものをここでさらに磨き高めることで、最終目標たる「世界を牽引する力を持った生徒」になることができるのだ。この活動は全国的に見ても非常に珍しい活動であり、多くの人々から注目されている。この経験が大学のAO入試でも役に立つかもしれない。

▲3年間の集大成を発揮

理系オナー

理系オナークラスはその名の通り、化学実験や様々なものを対象とした観察をメインに活動していく。1年間を通して多種多様な実習を行うことで、化学や物理、そして生物に関する知識を、本来大学で学ぶような範囲まで学習できるのがこのクラスの強みだ。そして以下でも紹介する通り、もう一つの大きな特徴として泊まりこみの実習が多いという点がある。

1年「天体観測」

理系オナークラスが1年次に行った行事の中で、特に生徒から人気が高いのがぐんま天文台で行う「天体観測」である。本年度は1泊2日の実習を計2回行った。残念ながら天候には恵まれなかったものの、生徒たちは夜空に浮かぶ様々な星について天文台の方から講義を受け、知識を深められたようだった。夜空が見える日には流れ星を探したり、観測用望遠鏡で普段は目視できないような星々を観察したりすることができる。

主な内容はもちろん天体の観測だが、そこは理系オナークラス、もちろんそれだけでは終わらない。天文台の高度な観測設備を用い、天体の発する光の種類を数値化、そこからその天体の年齢、地球からの距離などを推定することも可能だ。情報処理の技術はもちろん、天体に関してより深い知識を得ることができる。本来は文系科目である「地学」でしか学習できない内容の、さらに深い部分だ。

また、宿泊する施設は非常に新しく、美しい自然に囲まれた中で夜を過ごすことができる。人里離れた山奥であるため周囲に明かりはなく、友達と輝く星々を眺めながら談笑するのが定番だ。

▶雨の日は施設を見学できる

2年「海洋生物実習」

本年度の2年生は生物に関する実習を主として活動してきたが、その中でも大きな行事がこの「海洋生物実習」だ。お茶の水女子大学の協力のもと、千葉県の海岸沿いに2泊し、3日間を通して本物の生物を対象に解剖や実験を行うことができる。

今回行ったのは「ウニの発生の観察」及び「磯での生物採集」だ。ウニの発生では成体に薬品を注射して産卵・受精させ、その3日間での成長の様子を観察した。非常に短い日数にもかかわらず、ウニの幼生は驚くべき変貌を遂げる。一見の価値ありだ。

また、磯採集では特別に採集用の道具を用い、磯にすむ貝類やナマコ、蟹などを採集した。それらは研究室に持ち帰り、図鑑を片手にその生物の名前を推定する「同定」を行い、千葉県沿岸の生態系を確認した。また夜間には近場の漁港を訪れ、作製した罠でウミホタルを採集し、発光の様子を観察した。

海まで直接赴き、2泊3日の行程で実習を行う学校は、県内では非常に珍しい。特定の生物1種だけでなく、幅広い生物について学ぶことができる上、その内容はより専門的であるので、将来の夢が生物に関わる人にとっては格好のチャンスである。ここでしかできない貴重な体験だ。

▲ウニの発生を顕微鏡で観察する

3年「被災地見学」

3年次は受験も控えているため、オナー行事は1年の前半に集中している。その中でも目玉となるのが「被災地見学」だ。

この行事は東日本大震災の被害を受けた三陸海岸沿いの現在の様子を見学し、その爪痕や復興した姿を見つめることで、起こりうる大災害に備えた被害軽減策を考えるものだ。見学先は水族館や海岸沿いの港町を始めとして様々な場所が選ばれており、震災による被害の大きさはもちろん、被害が比較的少なかった地域の地形上の特徴や災害対策などを見ることができる。また、最後には見学についてまとめた内容をプレゼンテーションにし、自分たちで考案した被害の軽減策、調査した地域の地形上の特徴、防災対策等を発表した。

また、現地の食事は非常においしく、もう一度食べに行きたいほどとのことだった。

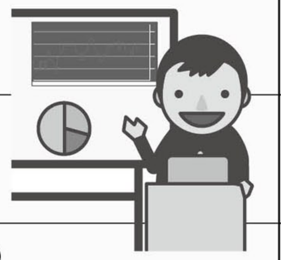
この行事は1泊2日という短い時間の中でも濃厚な体験をすることができ、自然の持つ脅威を改めて確認することができる。現在も議論が続く原発問題と共に、日本の今後を考える上で経験しておきたい行事のひとつとして挙げられるだろう。

▶現在の被災地の状況を知る

平成27年度　オナークラス活動

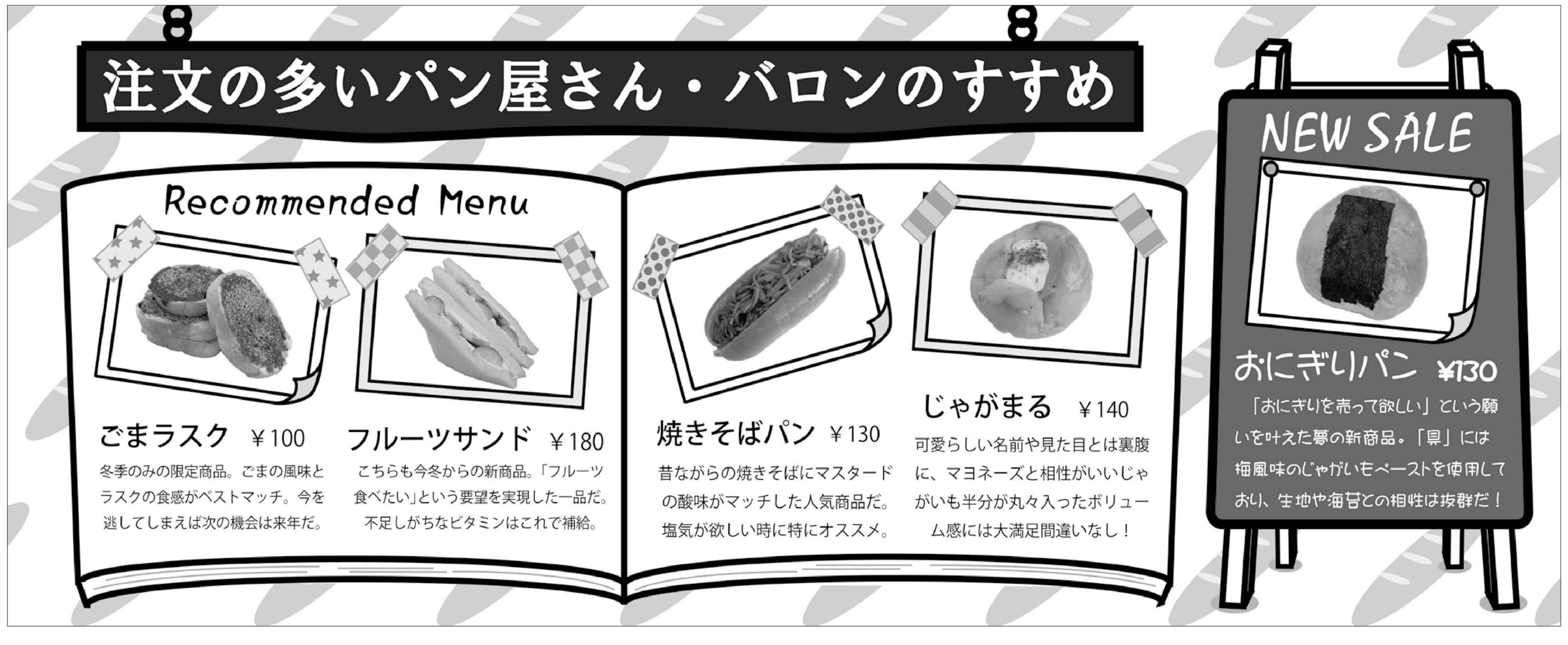
①：1年生、②：2年生、③：3年生

	文系オナー	理系オナー
4月	③コラボゼミ～9月（高崎経済大学）	①②③JAXA見学（筑波）
5月		③早稲田大学・TWIns見学（東京）
6月	②コラボゼミ前期～7月（高崎経済大学） ①作文指導（高崎経済大学） ①販売甲子園選抜プレゼンテーション大会（校内）	①②③東京大学駒場リサーチキャンパス（生産技術研究所） ②国立天文台・情報通信機構・調布JAXA（東京） ③宮城・福島被災地見学　1泊2日（南三陸町～いわき市） ②超伝導現象と温度変化講義（校内）
7月	②サイトウティーエム香港・中国事業所訪問3泊4日	②超伝導現象と温度変化講義（校内） ①自然エネルギーは地球を救えるか講義（校内） ②人は磁石にくっつくか？講義・実験室見学（足利工業大学） ①ソーラークッカーの活用法（足利工業大学） ①②ロボット実習（前橋工科大学）
8月	①イングリッシュセミナー（群馬県立女子大学） ③国内企業訪問（東京）	①ソーラークッカーの製作（足利工業大学） ①ソーラークッカーの実習（校内） ②変わりスピーカーの製作（足利工業大学） ②海洋生物実習（お茶の水女子大学研究センター）
9月	③コラボゼミ成果発表会（高崎経済大学） ②県SSH・SGH合同成果発表会中間発表（群馬音楽センター） ①②グローバルリレー講話～11月計6回（校内）	③成果発表会（校内） ②染色体・DNAについて講義（校内） ②アユ人工授精実習（県水産試験場） ②染色体・DNAの可視化（埼玉工業大学）
10月	①事業所見学・講話（昭和電気鋳鋼・キンセイ産業） ②コラボゼミ後期～12月（高崎経済大学）	①吉岡エネルギーパーク見学 ②有機反応機構講義（校内） ①天体観測（県立ぐんま天文台） ①神流川水力発電所見学（上野村） ②有機反応の実験（埼玉工業大学）
11月	①イングリッシュセミナー（群馬県立女子大学） ①熱血！高校生販売甲子園（高崎えびす講市）	①天体観測（県立ぐんま天文台）
12月		②有機反応機構の3D-CGによる可視化の実習（埼玉工業大学）
1月	①イングリッシュセミナー（群馬県立女子大学） ②コラボゼミ成果発表会（高崎経済大学）	①情報通信機構講義（校内）
2月		
3月	①②校内ビブリオバトル（校内） ②県SSH・SGH合同成果発表会最終発表（桐生市民文化会館） ①②③SGH事業体験活動成果発表会（群馬音楽センター）	①②③SGH事業体験活動成果発表会（群馬音楽センター）



記者の目

オナークラスの「オナー」とは「名誉」という意味である。その名の通り、このクラスだけの多種多様な活動の数々は、未来の大成へ必ず大きな役割を果たすはずだ。



注文の多いパン屋さん・バロンのすすめ

Recommended Menu

ごまラスク　￥100
冬季のみの限定商品。ごまの風味とラスクの食感がベストマッチ。今を逃してしまえば次の機会は来年だ。

フルーツサンド　￥180
こちらも今冬からの新商品。「フルーツ食べたい」という要望を実現した一品だ。不足しがちなビタミンはこれで補給。

焼きそばパン　￥130
昔ながらの焼きそばにマスタードの酸味がマッチした人気商品だ。塩気が欲しい時に特にオススメ。

じゃがまる　￥140
可愛らしい名前や見た目とは裏腹に、マヨネーズと相性がいいじゃがいも半分が丸々入ったボリューム感には大満足間違いなし！

NEW SALE
おにぎりパン　¥130
「おにぎりを売って欲しい」という願いを叶えた夢の新商品。「具」には梅風味のじゃがいもペーストを使用しており、生地や海苔との相性は抜群だ！